

田中かすみと竹谷とし子復興副大臣は、共に北海道出身で大学も同窓。ひとりに寄り添い、課題を解決していく、公明党の取り組みについて語り合いました。

田中 竹谷さんは昨年8月、復興副大臣に就任されました。

竹谷 就任以来、週1日のペースで、福島県の中でも地震、津波、原子力災害にみまわれた浜通りと呼ばれる沿岸地域に通っています。復興が進む一方で、人口減少と高齢化の加速、根強い風評、帰還困難区域の解除や廃炉作業など、複雑で多様な課題が残っています。何度も足を運び、一人ひとりに寄り添った支援を進めています。

田中 公明党ならではの現場第一主義、小さな声を聴く力の出番ですね。私たちも、福島の農畜産物や魚を食べて応援したいと思います。



文京区議会議員
田中かすみ

復興副大臣 参議院議員
竹谷とし子

小さな声を聴き 寄り添う政治を

子育てに切れ目ない支援を—「子育て応援トータルプラン」

田中 公明党は、結婚から妊娠・出産、未就園時、幼児教育・保育、小中学校・高校、大学などまで切れ目ない子育てを支援するための「子育て応援トータルプラン」を発表しました。私も3人の子育て中ですが、区民相談を進める中で、子育ての課題については本当に多くの声をお聴きします。



竹谷 「子育て応援トータルプラン」は、子どもの幸せ最優先社会をめざし、少子化・人口減少の克服に向けた具体策です。これまで支援が手薄だった「0～2歳児」にも焦点を当てています。

田中 まさにそこが育児も家事も大変な期間です。仕事を持つ女性からは、子育てとキャリアの両立について悩む声をお聞きしていました。そこで文京区では「おうち家事・育児サポート事業」をスタートさせました。3歳未満の乳幼児を育てる家庭を対象に、民間のベビーシッターや家事代行サービスの利用料を補助します。ベビーシッターや家事代行だけでなく、保護者との対話や、兄妹の世話といった多様なメニューを用意しました。

竹谷 乳幼児の子育て時期は、外出の機会が減り、孤立しがちです。家族以外の人との交流の機会は大切ですね。

田中 さらに公明党文京区議団が働きかけ、文京区独自の0～18歳の所得制限なしの3万円支給、16～18歳までの5,000円支給の経済支援も実現できました。「子育て応援トータルプラン」の実現には、私たち区議会議員が地域の声を聴いて国政に届け、それを国で実現し、そしてその成果を地域の皆さんにお届けする必要があります。

竹谷 それが公明党のネットワークの真骨頂です。小さな声を聴く、それが公明党の原点です。



子どもと若者の「みらい」を開く

竹谷 田中さんの政策について教えてください。

田中 一つ目は、子どもと若者の「みらい」を開く、です。0～2歳の子育て支援として、オンラインによる相談や子育て世代同士の交流会。産後ケアのためのデイサービスの実現に取り組みます。また、病気や障がいがあるお子さんの移動の介助やタクシー券など、すべての親が安心して子育てできる文京区を目指します。

竹谷 文京区の環境の「みらい」への取り組みはどうなっていますか？

田中 文京区は、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」を目指すことを表明しました。家庭での省エネ・温室効果ガスの排出抑制を進めるために、断熱窓への交換費用を15万円まで助成しています。*

※本体価格・設置費用の10分の1以内

安心と希望の社会を目指して

田中 三つ目が、豊かで安心な「ちいき」をつくる。災害発生と防災情報を一元化した「文京区防災ポータルサイト」と、「文京区防災アプリ」を実現しました。家具の転倒防止による、怪我の防止と避難路の確保も重要です。そこで家具転倒防止器具の設置について、協力事業者からの

器具の購入と設置費用合計の2万円までを助成します。また、女性の視点を生かした災害拠点の強化、障がい者や高齢者に寄り添う支援を拡充します。

竹谷 公明党は2040年までの社会保障改革のビジョン「安心と希望の『絆

女性・家族の「いのち」を守る

田中 二つ目は、女性・家族の健康と「いのち」を守る、です。

竹谷 公明党は、「子どもを産み、育てる女性が健康でなければ、いい社会は作れない」との思いで、女性の健康支援に取り組んできました。例えば産後うつ予防のための産後ケア事業の全国展開や、不妊治療の保険適用の拡大、さらに生理の負担軽減のために生理用品の無償配布や公共トイレへの配備も進めています。

田中 文京区では、区内の小中学校、生活福祉課、社会福祉協議会などを通して無償配布しました。今後は、全小中学校の個室トイレへの生理用品の配備が実現します。また、生理休暇制度の取得推進の実現を進めていきます。そして、田中かすみのライフワークは、女性のがん対策です。子宮がんは20歳以上、乳がんは40歳以上の女性を対象に、「検診無料クーポン券」の配付を実現しました。さらに、がん治療と社会活動の両立のためのアピランスケアの充実も推進していきます。

心と希望の社会をつくりあげていきたいと、改めて決意しました。

竹谷 文京の、日本の「みらいのちいき」のために、共に働いていきましょう。田中かすみさんのいっそうの活躍を応援します。

田中 これからも力を合わせて、安

3期12年の実績と行動力

3人の子育て実感を区政に

教師の経験を教育に活かす

公明党
文京区議会議員

田中かすみ

公式サイト

日々の活動を発信しています。ぜひご覧ください。

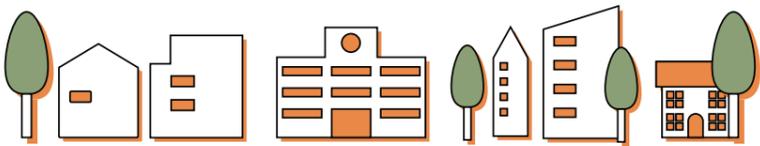


公明区議団が成澤区長へ

エネルギー価格・物価の高騰対策への緊急要望

エネルギー価格・物価の高騰により、光熱費等の負担も大きくなり、区民の生活や、中小事業者の経営に大きな打撃を与えています。公明党文京区議団は、これまで以上に「きめこまやかな支援が必要」として、3月23日、成澤廣修区長に対し「エネルギー価格・物価の高騰対策に関する緊急要望」を提出しました。地方創生臨時交付金を活用し、文京において以下の項目を早急に検討・実施するよう求めました。

- 1 低所得者世帯や高齢者世帯などに対する速やかな支援
- 2 区内中小企業・小規模事業者等に対して、電子決済還元事業を行うなど、事業が継続・発展できる支援
- 3 介護保険サービス事業者・障害福祉サービス事業者、保育施設・子育て支援施設に対して、**食材費・光熱費の補助の継続**。また区立小中学校の**学校給食食材費の補助の継続**。
- 4 **生活困窮者等に支援活動を行うNPO法人、子ども宅食や孤独・孤立対策に取り組むNPO等**に対し、支援ニーズが急増している現状を踏まえて対応を図る



公明党が物価高対策を後押し

物価高の影響が広がる中、公明党の主張で光熱費などの負担軽減策が、国でも実施されています。1月使用分から、電気代は家庭向けで1キロワット時当たり7円、都市ガス代は1立方メートル当たり30円が使用量に応じて値引き。ガソリンなど燃油価格を抑える補助と共に、9月まで続きます。

4月使用分からは、電気代に上乗せされている「再生可能エネルギー賦課金」が引き下げられ、標準世帯で月820円のさらなる負担軽減となる見通しです。

また、自治体を実施する物価高対策の財源（地方創生臨時交付金）を大幅に積み増し。LPガス（プロパンガス）料金や、学校給食費などの軽減策が進みます。低所得世帯には一律3万円のほか、追加で子ども1人当たり5万円を給付。多くの食品の原材料に使われる輸入小麦の政府売り渡し価格については、4～9月期も値上げ幅を抑えます。

公明区議団の訴えが大きく反映

令和5年度予算が決定

● 学びの居場所架け橋計画

学級に馴染めないと感じている児童・生徒のために、学校内に居場所を確保し、指導員配置を推進。また、NPOと連携し、オンラインシステムを活用した支援を進めます。

● 中小企業支援事業

現下の経済変動に対応するため、設備投資支援補助事業の拡充、経営相談支援補助事業の継続、「文京ソコチカラががんばるお店応援キャンペーン」を第3弾として拡充します。

● フードシェアリングサービスの提供

事業者と区が利用契約を締結し、WEBサイト上に設けられたフードシェアリングサービスを利用することで、事業系食品ロスの削減を図ります。

● 带状疱疹ワクチン

公明党の後押しで、全国の自治体に先駆け、同予防接種費用助成制度を開始した文京区。带状疱疹予防の不活化ワクチンへの助成についても、文京区は23区で初めて決定していました。令和5年度は、対象年齢を50歳以上に拡大し、シングルリックスワクチンを助成対象に追加します。

● 「防災×共助」加速化プラン

中高層マンション等エレベーター閉じ込め対策経費の拡充、マンホールトイレの設置助成など、中高層マンションの防災対策を強化。さらに地域における共助の力の醸成するための取り組みを実施します。

● おくやみコーナーの開設

死亡届後に発生する区役所内での様々な諸手続きについて、ご遺族の気持ちに寄り添い、不安や負担を少しでも軽減するため、「おくやみコーナー」を開設。必要な手続きを一括して申請できる仕組みを構築するとともに、ハンドブックを作成します。

● 町会・自治会への支援

新型コロナウイルス感染症の影響で中止・縮小となっている、町会・自治会の活動を後押しするための支援を行います。

● 新エネルギー・省エネルギー対策

住宅用太陽光発電システム設備設置費助成金額の拡充、自然冷媒ヒートポンプ給湯器設備設置費助成、高日射反射率塗料施工費助成などを行います。



成澤区長と物価高対策などについて意見交換をする公明区議団